

Title	韓国教会の受難と抵抗：日韓併合から「解放」の間
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No. 46
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2174
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

韓国教会の受難と抵抗

——日韓併合から「解放」の間——

高 萬 松

はじめに

一九一〇年の日韓併合条約から一九四五年の「解放」まで、韓国教会は厳しい状況に置かれていた。韓国併合の目的は条約第四号によれば、東洋の平和にあった。そこでは、日韓「相互の幸福を増進し東洋の平和を永久に確保せんことを欲し」⁽¹⁾、その目的を達成するために韓国を併合すると述べられている。しかし実際に、日本帝国主義はその条約通りに、三六年間の統治において正義に立脚し、東洋の平和のために尽力したのであろうか。

日本帝国主義は韓国のキリスト教に対して基本的に敵対政策をとったと言える。その最初の試みが一九一一年の「百五人事件」であった。それは日本帝国主義の脚本通りに捏造された、キリスト教を迫害した典型的な例であろう。多くのキリスト者は受身として被害を受けるしかなかった。併合されてから十年間は「武断統治」によって韓国の国民は憲兵・警察による恐怖の下で生活しなければならなかった。それに対する爆発が一九一九年三月一日に、突然「革命」のような形で現れた。不義に対する反発は大きな犠牲を払わなければならなかったが、その中でも教会は生き残つ

た。一九三〇年代半ばになると、日本帝国主義は皇民化政策によって韓国人を圧迫し、教会には神社参拝を強要した。それに最初に屈服したのはカトリック教会とメソジスト教会であった。長老教会も最初は反対していたが、次第に強圧に屈服し、「解放」の直前には長老教団自体がなくなる事態にまで至った。無論、ほとんどの教会は神社参拝をしなければならなかった。神社参拝問題に関しては、今まで朱基徹牧師が殉教者として広く知られていた。しかし、神社参拝反対運動が続いている最中に監獄の中で「解放」を迎え、出獄後、分裂された韓国教会の和解のために力を尽くした李源^{イウォン}永牧師に関する研究が近年公開されている。

本稿では、以上のことを踏まえて実態の把握に重点をおきたい。すなわち、韓国教会が神の摂理によって上記のような迫害にも生き残ってきた「歴史的実態」に触れてみたいと思う。

1 韓国教会迫害史

①合併初期の韓国教会の実態

日本の朝鮮占領は一八七五年九月二〇日の「雲揚号事件」から始まった。日清戦争（一八九四年）での日本の勝利によって、韓国は徐々に日本の手中に入った。一九〇五年の乙巳保護条約の宣布によって朝鮮の外交権が奪われ、一九〇七年の正末七条約によって軍隊と警察が解散された。一九一〇年に、日本は韓国を完全に合併した。

日韓併合のあった頃、韓国の社会と教会の雰囲気は静かであった。以下のような理由が考えられる。一九〇九年九月から二ヶ月間、義兵に対する大規模の討伐作戦があり、この影響で反発勢力が弱まっていた。また一九〇七年を基点に

して言論・出版の自由が抑圧され、社会の全般的な雰囲気が萎縮されていた。こういうことから「一九一〇年八月二九日は以外に静かであった」と見てよい。

当時の人々は、初代大統領李承晩イ・スンマンによれば、三つの部類に分けることができる。⁽³⁾一、「愚かな人々」で、官憲を恐れ、日本に抵抗出来ない人々。二、「放蕩な人々」で、形式的英雄主義者たち。三、「剛直な人々」。この第三番目の部類にキリスト者が多く属していた。日本官吏からの官職の要請に応じず、謙遜に教会に奉仕する人々であった。国権を喪失し、世の希望を失った人々が教会に魅力を感じ、そこから希望と勇気を見出そうとした。

当時の教会における魅力的要素は何か。それは「自由」と「力」と「団結力」である。第一に、ここでの「自由」とは現代的意味の宗教的自由とは異なる限定的自由と言ってよい。つまり、言論・集会の自由が抑圧されていた中で、教会は唯一人々が集会できる場であった。日韓併合後、日本人の許可なしに韓国人の四〇五人以上の団体は組織することができなかった。しかし教会では宗教の自由を掲げ、比較的の人々を集めやすい。例えば国旗の掲揚が禁止されたので赤十字の旗を掲げることや、禁じられた国歌の斉唱の代わりに賛美歌を歌うということができた。「自由」と言っても、警察の監視の下で説教し、説教内容によっては、説教者が警察に呼ばれることもあった。韓国教会の活動は多くの制限の下にあったのである。

第二に、教会からは「力」が湧き出る。それは活動力、生動力と等しい。世の人々が落胆し、希望を失っていたにもかかわらず、教会からは活動力が出る。「悲しみの中で喜びを、迫害の中で力」を得る根拠は、一九〇〇年前のイエスの苦難と使徒たちの迫害であった。厳しい苦難を耐え忍ぶ力は、李の言うように、歴史の主から来る力であったのであろう。

第三に、キリスト教における力の凝集力である。換言すれば愛の力である。以前の自己中心的生活が福音によって隣人愛に変わる。教会は神の家族として、神の愛において力を結集する。日本帝国主義が教会を警戒した理由がそこに

あつた。⁽⁴⁾ 彼らの政策に非妥協的であつた教会は、後に抹殺の対象となつていったのである。

②合併初期の教会弾圧

まず、宗教政策を見よう。初代統監である伊藤博文は、宣教師たちとの会合で、次のようにキリスト教に寛容な態度を示している。「日本が改革を遂行した時、高位政治家たちはキリスト教への不信から宗教に対する寛容政策に反対した。しかし、私は宗教と布教の自由のために勇敢に闘い、その結果勝利した。私の理論はこうである。文明というものは道徳に基づき、最高の道徳は宗教に基づかなければならない。したがって、宗教に対しては寛容な態度を取るべきで、奨励すべきである」⁽⁵⁾。しかし、伊藤に続く歴代朝鮮総督の宗教政策はどうであつたのか。敗戦後、日本政府の関係者によれば、植民地統治における宗教政策は一貫性がなく、朝鮮人救済としての宗教ではなかつたと指摘している⁽⁶⁾。しかし、われわれはそれがキリスト教に対する敵対政策と一貫していると考えられる。

なぜ、日本帝国主義は韓国教会を警戒したのか。それは、当時の教会が社会に及ぼした影響力が至大であつたからである。二点があげられる。一、一九〇七年の平壤大リバイバル運動。「回心」を伴つたその運動は教会の指導者たちだけではなく、一般の信徒たちにも影響を与えた。その結果、教会内部は大きく聖別された。二、伝道運動であつた一九〇九年の「百万人救霊運動」。スローガンの百万人という目標には及ばなかつたが、前述の二つの運動で、毎週日曜日と水曜日に大勢の人々が教会に集まり、集会が終わつたら信徒たちが町々に散らばつて伝道する、というようなことが起こつた。これらの運動が韓国の西北地方を中心として活発に動いたため、日本帝国主義は平壤地域を警戒しなければならなかつたのである。

韓国教会が日本帝国主義により最初の迫害を受けたのが「百五人事件」である。それは謀略によつて捏造されたもの

であるが、ここではその全貌を見ることは割愛し、日本帝国主義におけるキリスト教への敵対性を指摘したい。その実現のために用いたのが、欺瞞と非人間的な方法であつた。一言で、「義」が欠けていたのである。

「百五人事件」とは、「寺内総督暗殺陰謀事件」として知られている。これはキリスト教を撲滅するための、日本帝国主義による捏造事件である。韓国の西北地方、つまり、平壤地域を中心とした地域は、商工業勢力、基督教勢力が強かつた。当時の知識人たちはその地域を基盤として愛国啓蒙運動を展開していた。朝鮮民族の成長を阻止するために、まず日本帝国主義は西北地方のキリスト教勢力を掌握する必要があつた。「百五人事件」の目的は、「偽造、捏造などの弾圧を通して朝鮮人の民族的成長を阻止し、民族の抵抗を抹殺させ植民地支配政策の効率を高める」ためであつた。捏造の内容は、一九一〇年二月二七日に、キリスト者たちが中国と韓国との国境を流れる鴨緑江鉄橋竣工式に向かう総督を、その途中にある平壤の北にある宣川駅にて狙撃、殺害しようとしたという陰謀であつた。一九一一年九月から、約六〇〇人のキリスト者が検挙された。その中には教会の指導者たち、宣教師、またキリスト教学校の学生も含まれていた。日本の警察は被疑者たちに七二種類の拷問方法を用い、殺人罪などを負わせた。拷問による嘘の告白によつて一二三人が起訴され、一九一二年六月京城地方裁判所で開かれた第一審で一〇五人が有罪判決を受けた。過酷な拷問によつてメソジスト教会の全德基牧師など四人が命を失い、三人が精神病を患つた⁽⁸⁾。判決途中、取調べの矛盾が現れるのは当然である。

以上のように韓国教会は日本帝国主義によつて何もせずとも弾圧を受けた。不義に対して無力を感じるしかなかった当時、何もできなかった信徒たちの唯一の希望は正義の神を待ち望むことであつた。ある一人のキリスト者は、命が危ういその時に、次のように告白している。「間もなく私が監獄の中で死ぬとしても天国の義と同胞の将来の幸福のために災いを受ける」、「信じる人の血はキリスト教の種であり、義人の受ける迫害はキリスト教の文明の基礎である。今日われわれの受ける困難は将来の幸福のためのもので、羊が狼の群れに入つて行くように、従順に神の大きいなる正義を立

てて、来る世で権力を持つて打ち勝つ⁽⁹⁾」と祈った。

③ 教会が「結社」に及ぼした影響

日本帝国主義が教会を敵対して教会を弾圧した理由の一つには、教会の周りに「秘密結社」が多くあったからだと思われる。その組織には非暴力的なものもあれば、暴力的なものも存在していた。ここでは「新民会」という秘密結社をあげてみよう。その目的は、国の独立であり、政治・経済・教育・文化において教育振興運動を展開し、国家の力を伸ばし、抗日運動の力量を向上させるための組織であった。その中の大多数はキリスト者であり、約八〇〇人規模で、政治的・秘密結社ではあるが、真実と勤勉をモットーとし、実力の養成を目標としたため、非暴力的組織である。会員は愛国思想が強い人で選別され、緻密な組織として、会員は会の命令に絶対服従するという強力な秘密結社であった。⁽¹⁰⁾

この「新民会」が「秘密結社」として「君主制」を廃止し、「共和国」を建てようとしたことは注目に値する。究極的目的は、国権を回復し「自由国家」あるいは「自由独立国」を建て、その政治体制を「共和政体」とすることにあつた。韓国歴史上、最初の画期的なものであつた。⁽¹¹⁾ピューリタン革命期のクロムウェルが連想されよう。ある研究者は、その結社が作られたことについて、その会長がハワイにあつたある親睦団体からヒントを得たという見方を示している。⁽¹²⁾しかしわれわれはその秘密結社が「教会」という組織を見本として作られたと見なしたい。というのは、元来の自発的結社の源流が「原始教会」にあつたからである。

ジェームズ・アダムズ (James L. Adams) は、自発的結社の源流は原始教会であると見ている。彼は教会が神の恵みの業であり、教会の超越的志向性に注意を払いつつ、キリスト教の歴史においてヴォランタリズムが最初に原始教会において表現されたと見ている。⁽¹³⁾結社としての教会は「新しい契約」⁽¹⁴⁾を生み出すことによって、伝統的ユダヤ教の民族の

絆を超越し、個人に新しい組織における責任を与えた。同様に、新民会に加入するためには「盟約」という「契約」が必要であった。つまり、その結社は、契約によって結ばれていたのである。しかしながら会員は自発的にその結社のために全財産と命さえ捧げることも惜しまなかった。彼らの組織を教会と比較すれば、愛国運動が福音と等しく、独立国家が神の国と等しい。それゆえ、新民会の理念の源流には「教会理念」が基礎づけられていたと言えるであろう。

2 三・一運動とキリスト教

①背景

一九一九年三月一日に日本帝国主義の植民地統治からの独立運動が勃発した。それは通常、「三・一独立運動」（本稿では、「三・一運動」と略す）と呼ばれている。世界史的に見れば三・一運動は、第一次世界大戦中に行なわれたウィルソンの演説、つまり、一四か条の民族自決主義の影響による。ウィルソンの「民族自決」という用語の意味には、韓国が含まれていなかったが、韓国人はその言葉に韓国の独立を期待した。

観点を日韓の関係に移して見ると、「朝鮮併合に関する条約」の内容と現実との相違が表面に現れてきた。その条約の中には「両国間の関係」によって「東洋平和を確保」という目的があった。初代朝鮮総督寺内正毅は「併合に関する論告」において、「天皇陛下ハ朝鮮ノ安寧ヲ確実ニ保障シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持スル⁽¹⁵⁾」、と言っている。しかし、その締結から十年経過した一九一九年の時代像はそうであったのであろうか。それ以降の歴史は「両国間の関係」が不義に満ちた抑圧と収奪の関係に変わり、「東洋の平和」とは遥かに遠い破壊と蛮行という戦争の連続であった。

では、韓国人はどのような統治の仕方の下に置かれていたのか。一つは「劣等国民」として扱われ、もう一つは暴力的統治の下に置かれていたという点があげられる。第一、韓国人は、朝鮮総督の絶対権力の下で「劣等国民」として扱われていた。合併の二ヶ月前の一九一〇年六月、閣議は「合併後の韓国に対する施政方針」を次のように決定した。その二項を取り上げる。「一、朝鮮には当分の内、憲法を施行せず、大権に依り之を統治すること。一、総督は天皇に直隸し、朝鮮に於ける一切の政務を統轄するの権限を有すること。一、総督には大権の委任に依り、法律事項に関する命令を発するの権限を与うること」⁽¹⁶⁾。この施政方針によれば、総督は天皇大権によつて委任された存在である。韓国人は日本の憲法体制の下に統合されるが日本人と同様の「国民」ではない。そうではなく、韓国人は、朝鮮総督の意思によつて統治される非常体制下の「劣等国民」として扱われたのである。⁽¹⁷⁾韓国人は、合併後から三・一運動が起こるまでの十年間、「人間としての基本的権利を剥奪され」、「奴隸」のような生活をしたと見てよいであろう。⁽¹⁸⁾

第二、植民地統治の暴力性である。当時は、小学校の教員が佩剣し日本の威武を童心に刻みつけようとした。「軍事優先」の統治方法の象徴であろう。⁽¹⁹⁾またすべての政策は憲兵警察制の下で執行された。憲兵の任務には治安維持や他の行政的業務の遂行もあった。寺内が、元ロシア公使館の武官出身、明石元二郎を初代警務総監部長と任命したように、韓国人は極限的抑圧と人権蹂躪を感じなければならなかった。憲兵警察による武断統治の過酷さは次のような統計が示している。一九〇七年の全国の囚人は四〇〇人であった。しかしそれが急速に増加し、一九一一年には一八、一〇〇人、一九一三年に二、四〇〇人、一九一八年には八二、〇二一人となる。⁽²⁰⁾このような数値は、一方では総督政治の強圧さを示し、他方では韓国民族の独立意志の強さを表していると思われる。

②教会の実態（全国規模）

三・一運動はソウルから始まったが、三月中旬になると次第に全国的に拡散した。なぜなら、高宗の葬儀に参加した各地方の有力者たちが地方に戻り、ソウルの独立運動の状況が地方に知られるようになったからである。そして今度は、地方の宣教師たちがその地方で起きた独立運動の関連情報を本国に報告し、それが世界各地に伝えられるようになった。主にアメリカ宣教師たちの情報によって、米国教会は「米国基督教聯合会東洋問題研究会」を設置し、そこでの報告を『韓国の実態』(The Korean Situation) という題のパンフレットにまとめて出版した。⁽²¹⁾ それによつて三・一運動は世界各地に知られるようになった。特に米国の四二教派の教会は韓国の独立のために一日一回以上祈ることを決めた。また全米国教会連合会は駐米日本大使に抗議書を提出し、ウィルソン大統領にも建議書を提出した。⁽²²⁾

この運動は、「革命」⁽²³⁾ のようなもので、最初は非暴力かつ受動的抵抗運動として始まった。それは「独立宣言文」の朗読から始まったが、その宣言文の署名者三三人は自ら彼らの所在を警察に連絡し、全員が拘束された。警察の無慈悲な発砲、軍刀や銃剣に刺されたり殺され、あるいは拘束されると非人間的な拷問を受けたにもかかわらず、その運動は約一年間持続した。

一九一八年一二月現在、約一、七〇〇万人の人口で、基督教徒は二二万人⁽²⁴⁾。逮捕者は、二八、九三四人（一九一九年三月一日から七月二〇日まで）、検察の尋問を受けた人は一七、九九九人（一九一九年三月一日から七月二〇日まで）、破壊された教会が四一件に至る⁽²⁵⁾。一九一九年一〇月に開催された長老会の総会では独立運動による被害状況が報告された。総逮捕者数が三、八〇四名、逮捕された牧師と長老が一三四名、逮捕された男性信徒が二、一二五名、刺殺された人が四一名、現在服役中の者が一、六四二名であった⁽²⁶⁾、と報告されている。

他の宗教との対比のために、別の統計を参照してみよう。⁽²⁷⁾ 総逮捕者数一九、五二五名の内、無宗教が一二、三一名（六三・二％）である。つまり、宗教を持った人が七、二一四名（三六・八％）であり、その内、天道教の教徒が二、二〇〇名（一一・八％）であつたのに、長老教の会員が二、四六八名（一二・六％）、メソジストが五六〇名（二・九％）、その他のプロテスタント教会の信者が三二〇名（一・八％）を占めている。つまり、プロテスタント教会の信徒が三、三四八名（一七・一％）を占めている。これを見ると、宗教を持った人の半分がプロテスタント教会の信徒だという結果となる。すなわち、三・一運動によつて最も被害を受けた機関は教会であつたのである。

③教会の実態（地方別）

民族代表三三人が独立宣言書を朗読することから三・一運動は始まつた。三三人の内キリスト者が一六人で、その中には、当時、知名度の高い数人の牧師、長老もいた。キリスト者がその運動に参加した動因は、キリスト者の持つ「社会倫理観」⁽²⁸⁾と言つてよいであろう。裁判官の「日韓併合を反対したでしょう」という問いに対して、李承薫⁽²⁹⁾長老は「そうです。神様が教えて下さつたことがあります。……他の国に併合された自分の国の独立を望まない人がどこにいますか」⁽³⁰⁾と答えている。彼は神から何を教わつたのか。それは「正義」、神の義であつたであろう。

では、その実態を見よう。第一に、全国で最も強力なデモが行なわれた都市は平壤である。平壤を中心とする平安道地方では一三九箇所⁽³¹⁾でデモがあつた。平壤では、長老会の総会議長である金善斗牧師を中心として六つの教会が聯合し、皇帝高宗の追悼礼拝を捧げた。その後、金牧師が約三、〇〇〇人の信徒の前で独立宣言書を朗読すると、信徒たちはデモ行進した。⁽³²⁾ 金牧師は、「自由を求めた百年の生は、拘束された一千年の生にまさる」という趣旨の演説をし、万歳運動を主導した罪に問われて、一年半の刑を受けた。金牧師だけではなく、平壤長老教神学校の学生五人も寮で逮捕

され、笞刑を受けたという報告がある⁽³³⁾。が、実際報告されていない学生も大勢いたであろう。長老教平壤支部の報告によれば、平壤地域では三四七名が逮捕され、二三六名が笞刑を受け、一一一名が投獄され、一三名が殺害、もしくは、拷問を受けて死んだ。二六の教会が閉鎖され、一九の教会が警察、憲兵、軍人によつて毀損した⁽³⁴⁾。

第二に、韓国の「母なる教会」と呼ばれており、長老教会として最初に組織された、ソウルのセムナン教会を見よう。この教会では万歳運動に消極的であつた。「イエスを信じるという言葉と独立運動に参加するという言葉が、韓国では同義語⁽³⁵⁾」と通用されていた時代、セムナン教会が消極的であつたのは、長老教会における三・一運動の準備が平壤などの西北地方を中心に行なわれたからである。ソウルではメソジスト教会が中心となっていた⁽³⁶⁾。また、上記以外に、セムナン教会内部の問題、例えば牧師の政治観などが指摘されている⁽³⁷⁾。

第三に、慶尚北道地域を見よう。そこは韓国の中南部地域として、アメリカ北長老会の教会が多く建てられている。その中心に大邱^{デグ}、地方に安東^{アンドン}という町がある。ソウルでの万歳運動は即時、大邱に伝えられた。大邱で一番歴史の古い、第一教会が独立運動事務所の役割を担った。牧師、長老、ミッシヨン・スクールの学生たちが教会の近くの市場に集まり、李萬集牧師の主導で独立宣言文を朗読し、万歳運動をした⁽³⁸⁾。李の「今こそ韓国が独立できる時です。各自は朝鮮が独立できるように万歳しましょう」という叫びに、約一、〇〇〇人が呼応した。そこにおいても警察の鎮圧が報告されている。李牧師ら一四一人が拘束された⁽³⁹⁾。次に見たいのが安東地域である。この地域では朝鮮時代からの名門の儒家があり、当時の知識人グループを形成していたところである。その安東地域に礼安という小さな町がある。このような田舎の町にも独立運動が起こった。礼安には趙修人という儒教の指導者がいた。彼が三月八日に天道教の教祖、孫炳熙^{ピョンヒ}から手紙を受け、独立運動を決心する。そして後述する李源永らと相談し、三月一七日にその運動を行なうと決める。デモ隊の行動について、「三月十七日午後三時三十分頃約二、三十人名ノ一団ハ邑内後方宣城山ニ上リ同高地ニアリシ御大典紀念碑ヲ倒スト同時ニ韓国独立万歳ヲ高唱……示威運動ヲ開始セルヲ以テ直ニ首謀者以下十五名ヲ逮捕シ

テ……解散ヲ命スルモ応セス群衆ハ刻々増加シ其数約一千五百トナリ」⁽⁴⁰⁾と警察は把握していた。

④三・一運動の結果

三・一運動の結果を一言で断言することは難しい。政治的には、朝鮮総督府がその時点まで「武断統治」を行なったが、以降「文化政治」に変えるという施政方針を示した。が、後ほどそれは欺瞞的であったということが明らかになっている。韓国側で見ると、この運動は大韓民国政府の正統性を与える結果をもたらした。つまり、この運動によって、一九一九年冬、上海で大韓民国臨時政府が創設され、李承晩が初代大統領に就任される⁽⁴¹⁾。大韓民国の憲法は次のように三・一運動を継承している。「悠久なる歴史と伝統に輝くわが大韓民国は、三・一運動によって建立された大韓民国臨時政府の法統」⁽⁴²⁾である。

では三・一運動は教会にはどのような影響を与えたのか。当時韓国では歩いている人が警察の「キリスト教徒なのか」という検問にもし「そうだ」と答えるならば打たれていた時代であった⁽⁴³⁾。多くの教会の指導者たちは迫害を覚悟しつつ、彼らの宗教的自由を高めるためにその運動に参加したに違いない。教会が沈黙しなかったことは、一般民衆に対して教会のよいイメージを与える契機となった。つまり、民族問題において教会と一般民衆の共感帯が形成されたのである。三・一運動の後、教会は一時的に成長が止まっていたが、逆に新しい信者が増えていたのが次のような報告から窺えるであろう。「韓国の各教会が厳しい艱難を受け指導者が監獄に入り、牧会者や導く者が不在の中、新しい指導者が出て教会が前進しています。また、監獄において「キリスト」を信じようと決心した人々が監獄を出てから日曜日を守ることが多くなっています。新しく教会が二箇所増え、礼拝堂を大きく建築した教会が五箇所、伝道費は以前より六倍増えました」⁽⁴⁴⁾と述べられているように、その運動は地方の教会にも影響を与えたのである。

3 神社参拝とキリスト教

①キリスト教への弾圧

日韓併合以前にも日本の神社が朝鮮に十三社あり、それらは朝鮮の各地域に居住する日本人の崇敬の対象となった。⁽⁴⁵⁾ソウル南山にも朝鮮神宮が建てられたが、それは朝鮮総督府が「国風移植の大本として、内鮮人の共に崇敬する事の出来る神祇を勧請して、半島住民の報本反始の誠を致させ、内鮮融和を図るのは、朝鮮統治上最も緊要の事として」、⁽⁴⁶⁾計画されたものであった。一九二五年に天照大神と明治天皇が祭神として鎮座された。一九三〇年代になると神社参拝の強要が激しくなった。

最初に神社参拝が強要されたのは平壤のミッシヨン・スクールであった。元台湾総督であった安武が平安南道知事となつて、平壤の春季皇霊祭の祭礼に各学校の生徒の出席を要求した。また一九三五年一月一日、安武は道内の公・私立中等学校の校長会議を招集し、開会の際、彼らに平壤神社の参拝を命じた。⁽⁴⁷⁾イエス以外の神に参拝することはキリストの戒めに反することだと、尹山温 (G. S. McCune) らはそれを拒否した。安武はその問題を総督府に報告し、一九三八年二月まで、北長老会経営の八校の中等学校と南長老会経営の一〇校の学校が閉鎖された。

一九三七年に日中戦争が勃発し、一九三八年になると、戦争の拡大に伴つて朝鮮は帝国の兵站基地化された。非常時局の体制下、総督府はキリスト教が事態に冷淡だと判断し、一九三八年二月にキリスト教に対する「指導対策」を発表した。⁽⁴⁸⁾その内容には、時局認識を徹底させるためにキリスト教指導者たちの座談会を実施するということ、そして次の

ような具体策が提示されている。すなわち、教会堂への国旗掲揚塔の設置、国旗に対する敬礼、東方遙拝、国歌奉唱、皇国臣民誓詞の斉唱の実施、一般イエス教徒の神社参拝勧誘、賛美歌、祈祷文、説教などの検閲強化などである。⁽⁴⁹⁾ 東方遙拝とは天皇の居る東京に向けて最敬礼を表すことであるが、それは朝鮮の官庁、学校その他すべての機関で行なわれた。一九三八年一〇月に皇国臣民誓詞が制定された。これは児童用と成人用がある。皇国臣民として君国に忠誠を誓い、信愛協力すること、忍苦団練して皇道を宣揚しようという内容が含まれている。一九三八年一月には既に天皇の写真は全学校に配布され、総督府はそれに礼拝を強要したのである。

②長老会総会の屈服

総督府は、一九三八年の長老会総会で神社参拝を決議させようとする計画を立てた。つまり各地で開かれる長老会の老会で神社参拝が可決されるように、あらゆる手段を使った。そのような強圧によって、全国で最大規模の平北老会「平安北道の老会という意味」が神社参拝を可決した。元日本憲兵隊出身であった金一善牧師が老会長に選ばれ、彼の主導で可決された。平北老会が神社参拝を可決したため、その余波は急速に全国に拡散された。全国二三の老会の中、一七の老会が可決した。⁽⁵⁰⁾ 実態として、慶尚道安東地方の慶安老会を例にあげよう。ここでは、一九三八年八月三〇日の臨時老会で、神社参拝が宗教行為ではなく、基督教教理に反するものではないということが決議された。そして老会では各教会にこの事項を伝え、各教会は反対者を追放するよう指示した。⁽⁵¹⁾ 全国の各老会が神社参拝を可決した状況下、一九三八年九月九日、平壤西門外礼拝堂で第二七回長老会総会が開催された。出席者は所属二七老会（朝鮮二三、満州四）代表牧師八八名、長老八八名、及び宣教師三〇名総計二〇六名に達した。⁽⁵²⁾ そこで「当局では神社参拝が宗教ではなく、国家儀式だと宣言しますので、われわれの総会も神社参拝を決定しましょう」という提案が可決されたのであ

る。その後、次のような声明書が朗読された。

我等は神社が宗教に非ず且基督教の教理に反せざる本義を理解し神社参拝が愛国的国家儀式なることを自覚しましたがつて率先励行し進で国民精神総動員運動に参加し以て時局下に於ける銃後皇国臣民として赤誠を尽くすことを期す

昭和十三年九月十日 朝鮮イエス教長老会総会長 洪 澤 麒⁽⁶³⁾

上記声明文の朗読後、代表牧師二三人は平壤神社を参拝した。長老教会の完全な屈辱であつた。それは警察の工作の成功でもあつた。それゆえ、警察当局は、一九三五年以降問題となつた神社参拝が完全に解決されたと見、朝鮮基督教が「日本的宗教」⁽⁵⁴⁾として新たに出発するようになったと喜んだのである。

③ 殉教者朱基徹（一八九七—一九四四）牧師

牧師は神社参拝を拒否し続け、「解放」の一年前に獄中で殉教した。朱は一八九七年一月二五日に、「韓国南部」慶尚南道昌原郡熊川面で生まれた。一九一三年に、当時民族精神の教育に力を入れていた五山学校で、曹晩植^{ゾマンシツク}と李承勲^{イスンフン}から信仰心を習つた。若い時に、一九一九年の三・一運動にも参加し、一ヶ月間投獄されたこともある。彼の父は長老で、当時有名なりバイバリスト金益斗^{キンイクトゥ}牧師の集会に参加して召命を受けた。一九二五年には平壤神学校を卒業し、その後、一五年間の牧会をし、七年間（四回）の獄中生活を送つた。

一九三八年頃には神社で武運長久祈願祭が行なわれ、その頃、朱は最初に拘束された（一九三八年二月〜六月）⁽⁵⁵⁾。彼

の最後の牧会地は平壤の山亭峴教会である。そこは、信徒たちが教会の閉鎖される寸前まで闘った所でもある。朱はどのような思想の持ち主であつたのか。一言で言えば、「義」に餓え渴く人であつたと思われる。以下、彼の説教から三点あげよう。

第一、朱の言う「義」は、不義に対する対抗概念として用いられている。朱は牧師修養会に招かれて「預言者の權威」という題の説教をした。それは不義に沈黙している当時の牧師たちへの警告メッセージのようなものであつた。しかし「預言者エレミヤは自分の祖国ユダが滅亡しているのを見て涙を流しながら悔い改めなさいと叫びました。なぜ、今日の先生方は権力にへつらい、日本の太平盛大を賛美し、この邪悪な時代と暗い現実にああししようとするのですか」と語った時に、突然、説教は警察によって中止された。その説教は預言者の声のようなものであつた。

第二、朱の求めていた「義」は「公的な義」であつた。元長老会神学大学学長、李鍾聲^{イジョンソク}は「義人の血」という題のコラムで、「彼〔朱〕は侵略者たちに神の公義を表すために闘った⁽⁵⁶⁾」と述べている。聖書に「神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の境界をお決めになりました」（使徒言行録一七・二六）と書かれている。それは、すべての民族が神の前で神の子として生きる生存権と人権を持つと解釈できるであろう。そうであれば、朱の闘いは、奪われた生存権と人権の獲得であつた。朱は「公的な義」（public righteousness）という理念を追求したと考えられる。

第三、朱の言う「義」は「人格的關係」として捉えられている。次のような朱牧師の祈りがある。「私の祈りは、義において生き、義において死ぬことです」（to live and die in righteousness）⁽⁵⁷⁾。朱は、君臣との関係や夫婦の関係を「義」と捉え、「民は国に対して忠節の義があり、妻は夫に対して貞節の義がある。キリスト者はキリスト者としての義がある⁽⁵⁸⁾」、と言う。「キリスト者としての義」とは何か。それは「キリストの花嫁としての貞節⁽⁵⁹⁾」であり、それはキリストとの人格的關係なしには成り立たないであろう。

④ 李源永（一八八六—一九五八）牧師

「解放」と共に、神社参拝の反対者たちは出獄した。李源永^{イワツヨウ}牧師はその代表的存在の一人である。しかし、今まで李の存在についてはあまり知られていなかったのが現状である。⁽⁶⁰⁾李は、一九一九年の三・一独立運動に主動者として参加したという理由で、一年間、ソウル西大門刑務所に収監された。その中でキリスト教に改宗し、後に平壤神学校を卒業し、牧師となり（一九三〇年一月）、慶尚北道安東所在の西部教会などで牧会した。

当時、長老教会の總會さえ神社参拝を認めた社会的状況の下で、李は、神社参拝も、創氏改名も、東方遙拝もすべてしなかった。その理由で四回、投獄された。「解放」後、大韓イエス教長老会の總會長を歴任した時、当時の副總會長が永樂教会の韓景職^{ハンギョシツク}牧師であつた。韓は神社参拝をしたため、總會長になれなかったが、二人は神社参拝の問題で分裂していた当時の教会の和解のために尽力したと伝えられている。⁽⁶¹⁾次は李の死後、一人の後輩牧師の評価である。「福音信仰、教人之模本。聖經知識、教会之光明。敬虔生活、萬人之龜鑑。節義死守、百世之師表。道世帰天、聖徒之榮光。高德嘉行、後人之道慕」。⁽⁶²⁾

当時の教会の実態は、一言で言えば教会の墮落であつた。李源永の所属した『慶安老会七十年史』は第三七回老会（一九四二年六月）で次のように徴兵制の祝い会を実施した。「一同敬礼、宮城遙拝、黙禱、国歌合唱、開式辞、お祝いの言葉（金牧師、澤田高等主任）、海行かば、皇国臣民誓詞、閉式」。⁽⁶³⁾また愛国心の向上のために時局講演会を開催し、国民総力連盟に協力するために鎗器を献納し、愛国機献納の献金をし、戦勝祈祷会が開催された。それだけではなく当局は、小さな教会を大きな教会に合併させ、売却金を戦争費用として強制的に奪ったこともあつた。

では、李源永がどのような思想を持って日本帝国主義と闘ったのか。それは、「十字架信仰」であり、「公的義」への

関心である。第一に、李にとって十字架はすべての苦難の解決であり、答えであり、勝利の象徴であった。つまり、十字架は「必要」、「効果」、「実現」、「事実」、「勝利」であったのである。⁽⁶⁴⁾第二に、「公的な義」というモチーフである。裏フンジクによれば李は次のような思想の持ち主であった。「公的義を重んじる人が神の旨に従順する人である」⁽⁶⁵⁾、と。実際、李源永は、一九四八年三月、マタイによる福音書第五章を本文に、「天国を所有する根本」という題で以下のように説教した。すなわち、私的なことに命をかけても結果は虚無しかないが、公的なことを行なうと、その結果は人々に有益を与える、と。次の一句には李の思想が凝縮されている。「公は私の根本である」⁽⁶⁶⁾。

結び

日本帝国主義の朝鮮統治下にあった三六年间は、キリスト教に対して敵対政策をとることで一貫していた。日韓併合があつて間もない内には、「百五人事件」を捏造し、キリスト教を抹殺しようとした。一九一九年の三・一運動においても、多くの教会やキリスト者たちは迫害を受けざるを得なかった。一九三〇年代後半からは皇民化政策によって韓国教会は神社参拝強要に屈服し、一九四〇年代になると、韓国の各教派のアイデンティティがなくなり、日本の教派の教団と合併されるに至つた。日本帝国主義は、一九四五年八月一七日に、韓国のキリスト者約五〇、〇〇〇人を虐殺しようとする計画を立てた。⁽⁶⁷⁾それは不義の極致であろう。しかし、一九四五年八月一五日の「解放」によって、韓国教会はそのような不義から免れることができた。

日韓併合から「解放」の間、韓国キリスト教の歴史は、「正義」と「不義」との闘いであつたと言える。

注

- (1) 海野福寿『韓国併合』岩波書店、二〇〇七年、二三七頁。
- (2) 韓国基督教歴史研究所『韓国基督教の歴史Ⅰ』基督教文社、二〇〇八年、三〇八―三〇九頁。
- (3) 李承晩『韓国教会迫害』Cheong Media、二〇〇八年、一五〇―一五二頁。李は一九一一年にプリンストンで国際政治学博士号を取得した。
- (4) 前掲書、一五〇頁。
- (5) F. A. McKenzie, *Korea's Fight for Freedom*, Fleming H. Revell, 1920, 211.
- (6) 大蔵省管理局『人の海外活動に関する歴史的調査』通巻第四冊朝鮮編第三分冊、一九四七年、八七頁。
- (7) 尹敬老『百五人事件と新民会研究』一志社、一九九〇年、三頁。六〇〇名を検挙し、起訴者一二三名の総刑量は、七五〇年ほどであった。
- (8) 尹、前掲書、三五頁。
- (9) 李、前掲書、二二六―二七頁。
- (10) 金良善「三・一運動と基督教界」、『三・一運動五〇周年記念論集』東亜日報社、一九六九年、二三七頁。
- (11) 慎錫廈『韓国民族独立運動史研究』乙酉文化社、一九八五年、二七頁。
- (12) 前掲書。
- (13) ジェームズ・アダムズ (James L. Adams)『自由と結社の思想——ヴォランタリー・アソシエーション論をめぐって』柴田史子訳、聖学院大学出版部、一九九七年、一一八頁。
- (14) 前掲書、一一九頁。
- (15) 『朝鮮総督諭告・訓示集成Ⅰ』緑蔭書房、二〇〇一年、五頁。

- (16) 海野、前掲書、二一五頁。
- (17) 李廷銀『三・一独立運動の地方示威に関する研究』国学資料院、二〇〇九年、四一頁。
- (18) 李、前掲書、四〇頁。
- (19) 姜徳相「憲兵政治下の朝鮮」、『歴史学研究』三三二号、青木書店、一九六七年、一頁。
- (20) 『現代史資料25』みすず書房、一九八一年、一二頁。
- (21) 『独立運動史資料集第四集』独立有功者事業基金運用委員会、一九七二年、三三一―五〇四頁を参照。
- (22) 金良善、前掲書、二六九頁。
- (23) 『独立運動史資料集第四集』、四七三頁。
- (24) 前掲書。
- (25) 前掲書、四七五頁。
- (26) 前掲書、四七六―四七七頁。この数字は長老教会のみである。
- (27) 大韓イエス教長老会総会歴史委員会編『大韓イエス教長老教会史(上)』大韓イエス教長老会総会総会、二六九頁。カトリック教徒は五五名(〇・三%)、仏教徒は二二〇名(一・一%)。
- (28) 『大邱第一教会百十年史』一八九三―二〇〇三』一〇周年編纂委員会、二〇〇四年、一八〇頁。
- (29) 李長老は平壤の北部、定州で五山学校を設立し、青年たちに民族教育をした。三・一独立運動宣言文に署名した三三人の一人である。
- (30) 李炳憲『三・一運動秘史』時事時報社出版局、一九五九年、八〇八頁。
- (31) 朴容圭『平壤山亭岬教会』いのちのことば社、二〇〇六年、一〇九頁。
- (32) 『長老会神学大学校一〇〇年史』長老会神学大学、二〇〇二年、一四三頁。三月一日から八日まで警察に逮捕された人は四〇〇人で、その中一五四人は笞刑を受け釈放され、四八人は検察に送られた。前掲書、九七三頁。
- (33) 前掲書、一四五頁。
- (34) 前掲書、一四四頁。
- (35) 『セムナン教会一〇〇年史』セムナン教会歴史編纂委員会、一九九六年、二〇七頁。

- (36) 前掲書。
- (37) 前掲書。
- (38) 『大邱第一教会百十年史 一八九三—二〇〇三』、一八二—一八三頁。
- (39) 李牧師は懲役三年の刑を受けた。また、拷問を受けた結果、李牧師は監獄を出た後に健康を損なった。
- (40) 慶尚北道警察部『高等警察要史』朝鮮印刷株式会社、昭和九年、二七頁。「記念碑」は「記念碑」の間違いであろう。
- (41) 金仁洙『韓国基督教会史』韓国長老教出版社、二〇〇二年、二二四頁。
- (42) 高橋和之編『世界憲法集』岩波文庫、二〇〇八年、三三三頁。「臨時政府の法統の継承」とは、国分典子によれば、「臨時政府の法的性格と政治的理念を継承する」という意味である。前掲書、三三四頁。
- (43) F・A・マッケンジー『韓国の独立運動』申福龍訳、集文堂、一九九九年、二二五頁。
- (44) 『大邱第一教会百十年史 一八九三—二〇〇三』、一八八頁。
- (45) 岩下伝四郎『大陸神社大観』昭和一六年、大陸神道連盟、四二頁。
- (46) 前掲書、五三頁。
- (47) 金良善『韓国基督教史研究』基督教文社、一九七一年、一七八頁。
- (48) 朝鮮総督府警務局『最近に於ける朝鮮治安状況—昭和十三年』昭和五十三年、三九〇—三九一頁。
- (49) 前掲書、三九〇—三九一頁。
- (50) 金仁洙『日帝の韓国教会迫害史』大韓基督教書会、二〇〇六年、一〇三頁。
- (51) 『慶安老会七十年史（一九二—一九九二）』慶安老会七十年史編纂委員会、一九九二年、一八四頁。
- (52) 『最近に於ける挑戦治安状況—昭和十三年』、三九三頁。『平壤老会史』平壤老会、一九八六年、二九七頁。
- (53) 『朝鮮イエス教長老会総会第二七回会議録』大韓イエス教長老会総会、昭和十四年、九頁。
- (54) 『最近に於ける挑戦治安状況—昭和十三年』、三九四頁。
- (55) 二次収監（義城警察署）一九三八年八月—一九三九年一月。三次収監（平壤警察署）一九三九年一〇月—一九四〇年四月。四次収監（総督府の神社参拝反対運動者の検挙の時、平壤警察署）一九四〇年九月。一九四一年八月に、平壤警察署から

平壤刑務所に移す。

- (56) 『蘇羊朱基徹牧師資料集Ⅰ（新聞記事一九六四～二〇〇〇）』朱基徹牧師記念事業会、二〇〇四年、一九三頁。
- (57) Kwangcho Chu, *More Than Conquerors*, Daesung, 2004, 52-53.
- (58) Ibid.
- (59) Ibid.
- (60) 近年、長老会神学大学の林熙國^{イムヒョクワク}教授による研究成果が公開されている。cf. 『鳳卿李源永研究』基督教文社、二〇〇一年。
- (61) 筆者は、李牧師の遺品展示室（大邱市所在）を尋ね、李牧師の御令嬢から当時の状況の一部について伺ったことがある（二〇〇九年七月）。「解放」後、韓国人が日本を軽蔑する言葉（日本の奴）を使うと、李は、彼らに「日本人」という言葉を使うように教えたそうである。李の人格を表す逸話であろう。
- (62) 金ソンニョン他編『永遠の師李源永牧師』基督教文社、二〇〇一年、二〇頁。
- (63) 『慶安老会七十年史（一九二一～一九九一）』一八八―一八九頁。
- (64) 裴興稷『鳳卿李源永牧師』ボイス社、一九九九年、三三五頁。
- (65) 前掲書、二七九頁。
- (66) 『鳳卿李源永牧師四十年追慕 新約全書』慶北印刷所、一九九八年、xx頁。
- (67) 金仁洙、前掲書、一八三頁。